2027年3月期 第2四半期
決算説明資料

Kudan株式会社（東証グロース：4425）
2026年11月12日

© 2026 Kudan Inc. All rights reserved.

Vision – フィジカルAI時代の空間知覚プラットフォーム

身体性のないAI



販売データを分析し、新商品アイデアを考えて

製品の広告イメージと販促計画を作って

原理	データ取得	学習
応用先	文章・画像・コード生成による業務効率化	

身体性のあるフィジカルAI



現場を巡回し、稼働が下がってる原因を特定して

部品を現場に運んで設置して

原理	空間知覚（機械の眼） kudan	行動・継続学習
応用先	デジタルツインによる現場生産性向上	移動ロボットによる自動化

フィジカルAIへの基盤技術提供による高収益を目指す

	～24/3期	25/3期	26/3期（前期）	27/3期（今期）	28/3期～
市場	従来市場の先行		フィジカルAI市場の勃興		
事業	技術実績を蓄積 • 世界初の半導体向け商用化[1] • 継続的な顧客製品化	技術領域の拡張 • SW/HW/ソリューションの新規拡大 • 市場開拓	売上伸長	収益最適化 • 高粗利SWへの注力 赤字縮小	高い収益性での事業成長 売上伸長・黒字化

1. 2022年に大手半導体プラットフォーム向け商用SLAMとして世界初の採用（米Intel社）

第2四半期 業績概要

■ 通期予想に対する**売上の進捗率28%は、過去実績と同水準**（前期33%／過去3期平均26%）にあり、期末偏重を想定した**通期予想を維持**

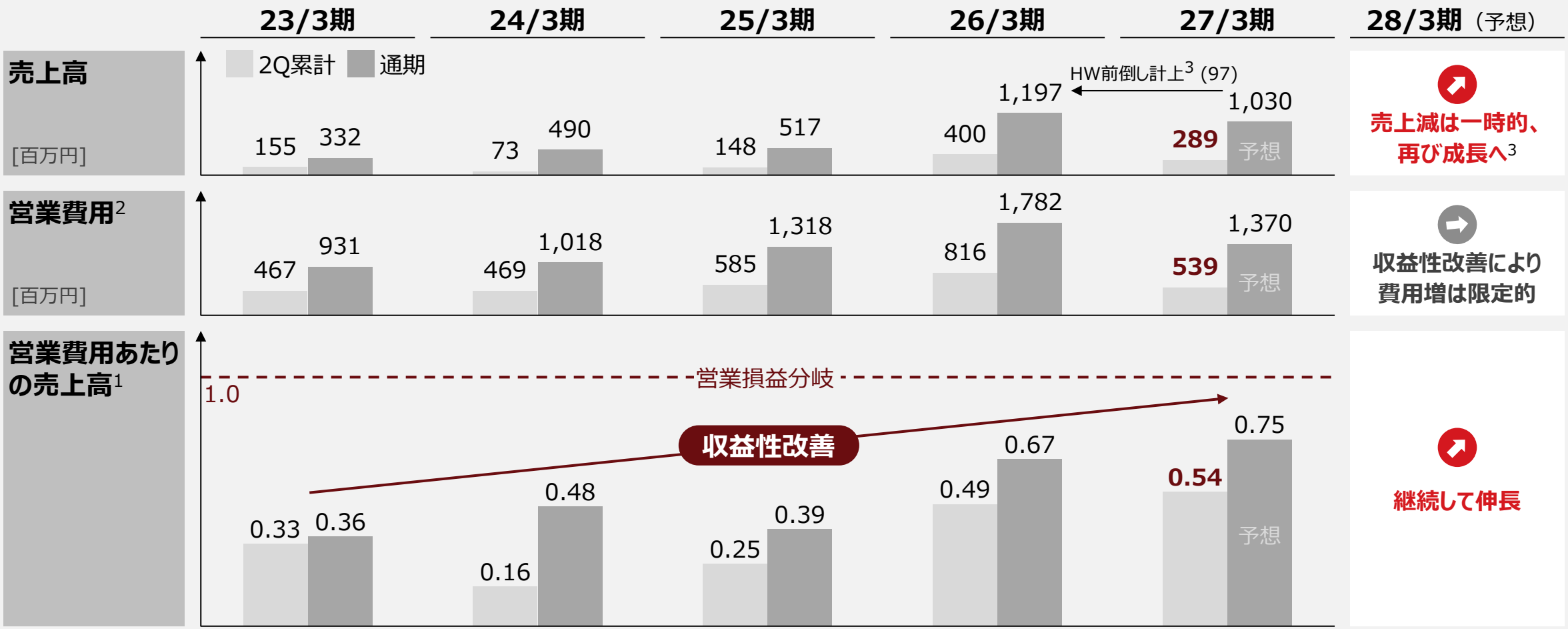
[百万円]

	前期 (26/3期)		**当期** (27/3期)		
	2Q累計	**通期実績**	**2Q累計**	**通期予想**	
		33%進捗		28%進捗	
売上高	400	1,197	**289**	1,030	▪ 通期予想に向けて進捗
営業利益	△416	△586	**△250**	△340	▪ 前期比で売上高は減少も、赤字は圧縮
経常利益	△287	△174	**△317**	—	▪ 前期比要因: グループ内債権債務の評価による為替差損[2] (-148)
純利益	△329	△188	**△321**	—	
調整後営業利益[1]	△367	△528	**△250**	—	▪ 前期比要因: 欧州R&D補助金[3] (-48)

1. 営業利益（損失）に毎期経常的に発生する政府からの研究開発補助金収入を加えた、事業収益性の指標となる利益数値
2. 前期2Q累計の為替差益78百万円と当期2Q累計の為替差損70百万円の差
3. 欧州R&D補助金の入金・計上時期の差。前期では2Qに計上、当期は3Qに計上見込

第2四半期 業績概要

■ 対前期で一時的な売上高減となるも（来期は売上成長へ回帰予定）、**営業費用あたりの売上高[1]が改善、過去5期で一貫した収益性の向上により、研究開発型の営業赤字からの脱却に向けて前進**

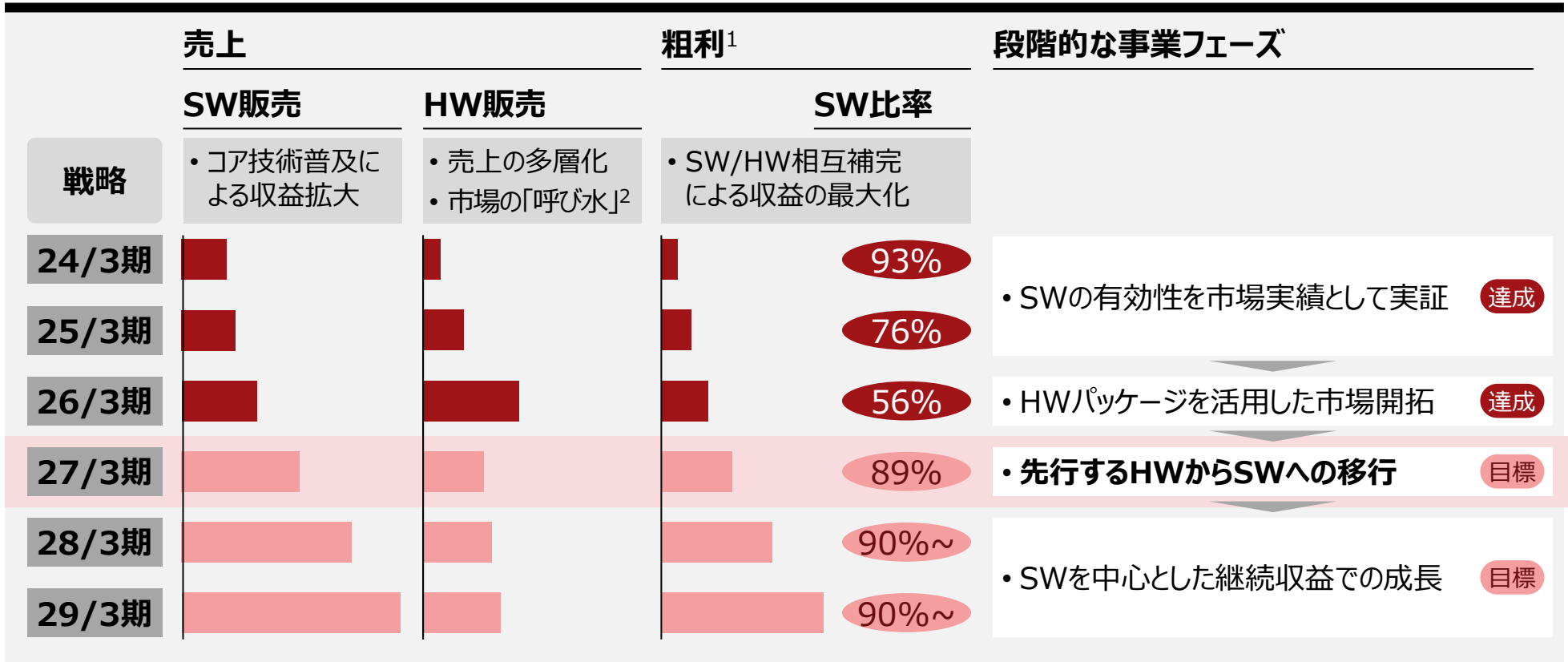


1. 売上高を営業費用で除した値。1.0を上回ると営業利益が黒字となる（営業損益分岐）
2. 売上原価と販売費及び一般管理費の合計
3. 本資料P.15を参照

SW集中による粗利向上

- HWで効果的に補完しながら、**中長期でのコアSW技術の普及を前提とした収益最大化が進捗**
- 先行する低粗利HWから高粗利SWへの集中により、**今期は粗利[1]におけるSW比率を大きく改善中**

今期予算での狙い（2026年3月期 決算資料 再掲）



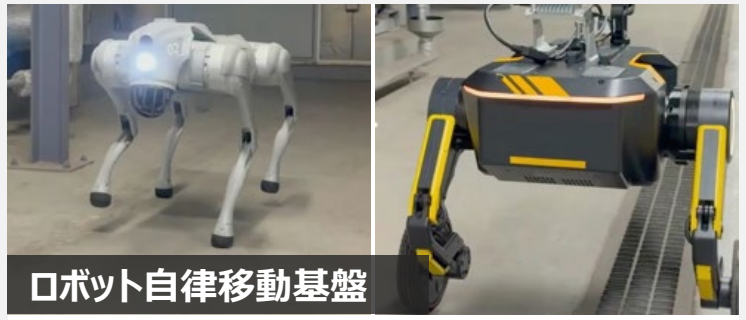
2Q累計実績で進捗

- SW販売売上が前期比**+35%**で伸長
- 粗利におけるSW比率が**85%**に伸長

1. 連結損益計算書の売上原価のうち、研究開発費に相当する額を控除し算定した粗利（政府案件の費用は研究開発的な性質を一部有するものの、案件の特殊性により当該費用が売上原価として会計処理されることを考慮）
2. HW統合パッケージは顧客が技術検証・設定などの初期導入コストが低く採用できることにより、その後の発展的な案件継続に寄与する

今上期の進捗 – 複数領域での成長

■ **デジタルツイン・ロボットで先行する事業ポートフォリオ**を中心に、フィジカルAI向けデータ技術を今期事業化

	先行領域		新規領域
	デジタルツイン向け技術[1]	**移動ロボット向け技術**[2]	**フィジカルAI向けデータ技術**
提供と価値			
	• **設備管理などの生産性向上** • 「人間の知覚と同等」の空間3D化と先進AIで、業務自動化・遠隔化を実現	• **複雑環境での移動ロボット実用化** • 従来技術では実用困難な、市場の大半を占める移動環境にフィジカルAIで対応	• **フィジカルAIの開発力を強化** • 開発に必要な空間行動データを効率的・高品質に取得・拡張
事業フェーズ	立ち上げ → 開発 → **商用化** • **商用化で先行**し、顧客基盤と継続収益を拡大	立ち上げ → **開発** → 商用化 • 本格スケールまでの期間は長いものの、**大型案件で事業規模を確保**	**立ち上げ** → 開発 → 商用化 • ロボット・デジタルツインの交差領域として**今期立ち上げ**

1. 本資料P.16を参照
2. 本資料P.17を参照

今上期の進捗 – デジタルツイン（概要）

- 初期導入への移行が進み、**顧客の定着による収益基盤の形成が進展**
- 導入規模・用途拡大・地域拡大の各軸で、**事業スケールを見据えて進捗**

KPI 前期実績に対する今期見通し　前期までに実績／今期も継続　今期達成　今期推進中　来期以降

顧客の定着 × 事業のスケール

フェーズ進捗

顧客数：+150%　継続率：95%

新規開拓	トライアル	個社開発	初期導入	継続導入
	施設単位の検証	業務要件に適合	実運用の開始	追加発注と顧客単価向上



期間	―	1～3か月	トライアル後 1～2年程度	順次移行

成長方針

個社開発の機能を活用して次の顧客の立ち上げを短縮し、
トライアルから継続導入への移行効率を高めることで、
売上と利益率を同時に押し上げ、継続導入による収益拡大を目指す

導入規模拡大

拠点導入	全社展開	外販化	業界標準化
特定施設・部門	他拠点に拡大	顧客と共同外販	業務基盤として普及

用途拡大

設備登録	運用効率化	シミュレーション	ロボット連携
業務自動化	遠隔業務による訪問削減	災害対応・設備計画	空間データ基盤として共通化

地域拡大

展開国数：10カ国

日本	欧州主要国	欧州その他	グローバル
製造・建設・インフラなど	独・西で設備・インフラ管理	各国へ横展開	パートナー連携で世界展開

今上期の進捗 – デジタルツイン（案件抜粋）

- **欧州：大手2社が成果を上げて本格導入へ進み**、業界・地域の両面で導入先を拡大
- **国内：ネクスコ東日本エンジニアリング社・公共案件が個社開発から初期導入へ進み**、防災・業界外販へ展開

		顧客の定着	事業のスケール		
		フェーズ進捗	導入規模拡大	用途拡大	地域拡大
欧州	施設・設備管理（欧州大手）	トライアル・個社開発で成果達成、本格導入へ	物流から金融・小売へ拡大	運用効率化へ拡大	欧州各国へ
欧州	公共インフラ・ユーティリティ設備管理（世界大手）	トライアルで成果達成、個社開発・本格導入へ	—	ロボット連携に向けて構想	欧州10自治体で導入拡大へ
日本	ネクスコ東日本エンジニアリング	個社開発が進捗、初期導入へ	業界への外販を計画（来期）	—	—
日本	公共案件（国交省・ソフトバンク）	個社開発が進捗、初期導入を実施	—	災害シミュレーションに拡張	—
日本	プラント・設備管理（日本大手）	トライアルが進捗、個社開発へ	—	—	—
日本	大手素材・大手ゼネコン・etc	新規案件を継続的に獲得、トライアルの拡大	—	—	—

詳細後述

今上期の進捗 – デジタルツイン（欧州案件詳細）

- 欧州大手2社が小規模の初期導入で成果を上げ、**Kudan PRISMの本格導入へ移行**
- 設備登録の自動化から運用効率化へ用途を広げ、**3業界・西欧10自治体へ導入を拡大予定**

	施設・設備管理 （欧州大手）	公共インフラ・ユーティリティ設備管理（世界大手）
企業概要	中欧を拠点に、欧州有数の不動産・設備管理サービスを展開 従業員 **4万人超** ｜ 展開国 **30か国超** ｜ 売上高 **40億€超**	西欧を拠点に、上下水道の運営で世界Top10に入る企業 給水人口 **4,500万人超** ｜ 展開国 **約20か国** ｜ 自治体 **2,000超**
Kudan PRISMのインパクト	**設備登録の自動化**：AIで設備を識別し、顧客データベースへ自動登録 **運用の効率化**：遠隔で現場を確認し、点検訪問を削減 **ダウンタイムの削減**：保守対応を早め、設備の停止時間を短縮	**設備管理の運用改善**：上下水道設備をデジタルツインで管理 **長期・大規模運用**：長期運用を見据え、欧州・北米全地域に展開 **社内基盤との統合**：顧客の社内システムとKudan PRISMを統合
実績と計画	**個社開発を経て本格導入、業界を拡大しての顧客施設へ展開** **1→3業界** 物流・金融・小売	**トライアルを経て本格運用へ移行、地域拡大とともにロボット導入も計画** **10自治体** 欧州の自治体で運用拡大

今上期の進捗 – デジタルツイン（ネクスコ東日本エンジニアリング社）

- 共同開発中のPRISM e-Roadを通じて、**道路点検・保守業務DXを推進**[1]
- 社会インフラの**安全・効率的な維持管理**と、**労働力不足への対応**に貢献

顧客の概要

- ネクスコ東日本グループで、**東日本エリアの高速道路の保全点検・維持管理**を担う
- 担当路線の総延長は**約1,400km**
- 調査・設計、道路保全管理から構造物の非破壊検査・診断まで対応

案件の概要[1]

- Kudan PRISMに同社の**道路維持管理の実務知見**を融合
- 空間データの計測・管理や**点検・記録の効率化**機能を開発

今後の展開

- 個社開発が進捗し、初期導入へ移行予定
- 共同開発の成果をもとに、**来期を目処に高速道路業界に向けた外販**を計画



1. 2026年9月「Kudan、ネクスコ東日本エンジニアリングとの共同開発を進展 道路維持管理業務支援ソリューション『PRISM e-Road』を共同出展」を参照

今上期の進捗 – デジタルツイン（防災ソリューション）

- Kudan PRISMを基盤とし、**平時・災害時・復旧期を支援する防災ソリューションを提供**[1]
- **施設情報・災害リスクを3D空間に統合**し、**迅速な意思決定と災害対応の効率化**を狙う[1]

防災ソリューションの提供開始

デジタルツインで、平時から災害時・復旧期まで切れ目なく支援

① 平時 備え・計画	② 発災前 予防	③ 災害時 初動対応	④ 復旧期 生活再建
			
■避難所の配置検討 ■物資の過不足確認	■浸水・被害の予測 ■避難計画・訓練	■応急危険度判定 ■避難所の開設判断	■避難所の衛生管理 ■物資・収容の管理

Kudan PRISM
防災の全フェーズを支える
デジタルツイン基盤

- フォトリアル3D再現
- セマンティック3D認識
- 広域～屋内の空間統合
- 移動シミュレーション

公共案件の推進

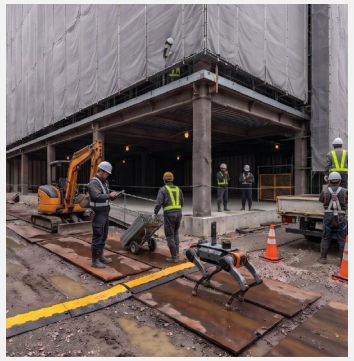
市場規模	国内（2031年度）**約2,500億円**[2] 世界（2030年）**約29兆円**[3]
実績	■南海トラフ地震を想定した**国土交通省・和歌山県すさみ町**の防災訓練で導入 ■**ソフトバンク社と協業**し、3Dデジタルツインを使った建物の被害確認・遠隔判定を支援 ■通信確保から被害確認、避難誘導までをつなぐ防災計画と統合
今後の展開	■政府の災害対応強化の方針に従い、防災ソリューションの普及を推進 ■避難所の事前計画、被害予測・訓練、発災後の状況把握、避難所運営等の幅広い災害対応支援を目指す

1. 2026年11月「防災分野にデジタルツインを活用して、被災した建物の応急危険度判定を遠隔から実施する技術を実証」および「Kudan、ソフトバンクと連携し防災デジタルツインの開発を推進」を参照
2. シード・プランニング「防災情報システム・サービス市場の実態調査」（2025年12月）国内市場の中間シナリオ予測
3. MarketsandMarkets「Incident and Emergency Management Market – Global Forecast to 2030」（2024年12月）

今上期の進捗 – ロボット（大型案件抜粋）

■ 建設・エネルギー・製造・物流の4分野で**日欧政府機関・大手企業との大型案件**が進行

建設RXコンソーシアム[1]　建設



NEDO採択　ゼネコン複数社

変化の大きい建設現場で自律移動を実現する汎用ソフトウェアを開発（継続中）

- 300社超が参画するコンソーシアムで、**標準ソフトの開発リーダー**を担う
- 環境変化に対する安定性でオープンソース比**10倍の性能を実証**[2]、搬送ロボット等へ適用

ノルウェー政府機関 IFEと協業[3]　エネルギー

IFE Institute for Energy Technology

エネルギー施設のロボット活用

欧州トップ級研究所　日本政府　各国電力会社

エネルギー・原子力分野でAIロボットの応用開発

- IFEは**国際原子力機関（IAEA）協力センター**として、原子力施設の廃炉でロボット活用を主導
- 高線量の廃炉現場へ**ナビゲーション技術**を応用

英国政府案件　coming soon　製造

スマートファクトリー

英国政府支援　産学9機関

次世代通信を活用した移動ロボット技術開発

- 英国政府の支援のもと、**次世代6G通信と連動したロボットの自律移動**を開発・実証
- 先進製造業・スマートファクトリーへの応用を目指す

フォークリフト自動化・安全化　物流

倉庫・物流のフォークリフト

ロボット企業協業　日本　欧州

フォークリフト向け自律移動技術・安全ソリューションが拡大

- 中国ロボット企業傘下MRDVS社の**センサー単体で自己位置推定を実現し**[4]**、安全ソリューション向けに展開**
- フォークリフト自律化は日欧複数案件（**ロボットメーカー・SIerへライセンス販売**）

1. 本資料P.18を参照
2. 2026年11月「Real2Sim2Realの現在地：現場スキャンからロボット検証環境へ」を参照
3. 2026年11月「ノルウェー・エネルギー技術研究所（IFE）との協業に向けた取り組みを開始」を参照
4. 2026年6月「KudanとMRDVS、ロボティクスおよびフリート向けスマートセンサーモジュールにおけるKudan Visual SLAMの活用に向けて協業」を参照

今上期の進捗 – フィジカルAI向けデータ技術の提供

■ フィジカルAIで急増する現場データ需要を、**既存のロボット・デジタルツイン資産を活かして取り込む**

市場	フィジカルAI市場（~2035年）	うち データ構築・シミュレーション
	20兆円[1]	**約2.5兆円**[2]

現在地	今期	来期	中長期
	提供開始	顧客基盤構築	収益化・拡大

デジタルツインと統合した技術基盤の提供（Kudan PRISM for Robot）

① データ取得の効率化



現場をスキャンし3Dデータ化

② データ拡張の実現



環境を自動生成し実データを大規模化

③ データ品質の確保



シミュレーションで検証し現場で確認

自社開発で効果を検証済[3]

当社の移動ロボット技術開発に適用

開発効率

最大約80倍

3Dスキャン機器・技術の提供	技術サービス・ツールの提供	実装支援

Kudanの強み

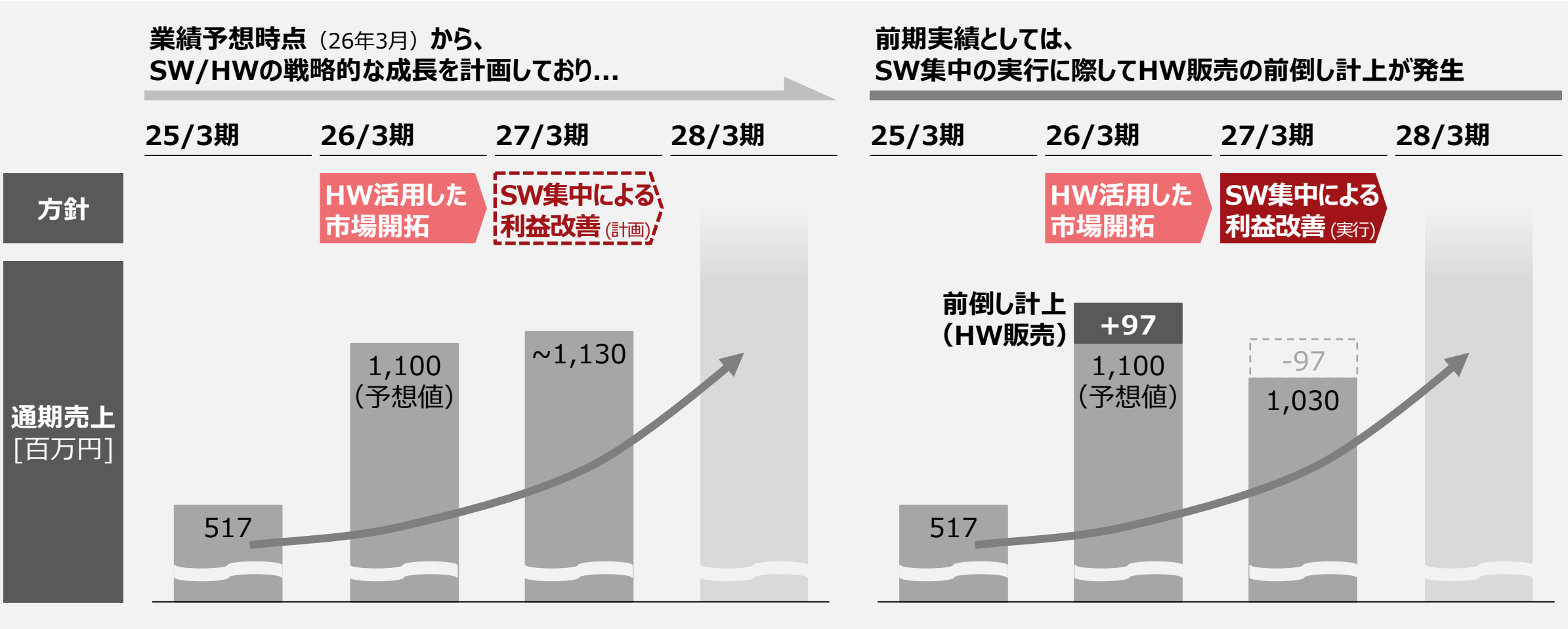
自社の空間知覚技術	2領域の顧客基盤	既存基盤の再利用
SLAMなどのコアIPを保有	ロボット・デジタルツインの既存案件・技術知見	Kudan PRISMを活かし追加開発を抑制

1. Grand View Research、MarketsandMarkets、Fortune Business Insights 等の公開市場調査データから推計
2. 合成データ生成市場の画像・動画分野（Market Research Future、Future Market Insights）とロボットシミュレーター市場（Precedence Research）の2035年予測から推計
3. 2026年11月「動的環境での長期LiDAR自己位置推定：公開ベンチマークを用いたOSS比較」を参照

補足資料（Appendix）

高粗利SWへの集中

- SW集中の実行にともない[1]、今期に想定していた**HWパッケージの一部売上が前期に前倒しで計上**
- 一過性の売上減であり、**来期以降に収益性を高めた売上成長・黒字化を見込む**



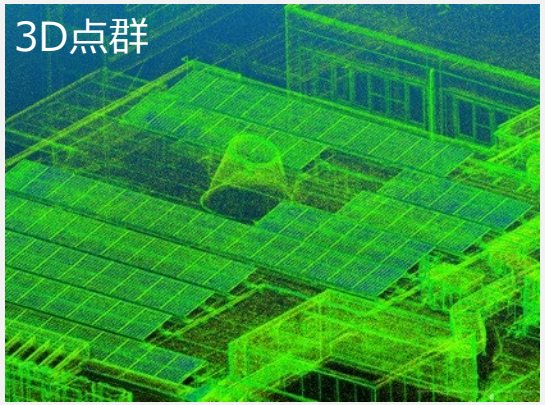
1. 新方針にともなう関連案件の契約見直しを実施し、前期と今期の販売計画を最適化

デジタルツイン（PRISM詳細）

■ 社会需要が非常に高いものの、従来手法では実用化に制約があった分野に対し、 Kudan PRISMは革新的な技術手法を導入し、ソリューションの実用化と普及を目指す

PRISMによる先進技術のソリューション化

従来手法



- **3D点群中心のデータ**
- **実用化が限定的**
  （AI精度不足、データ容量・取扱い困難、システム連携困難）

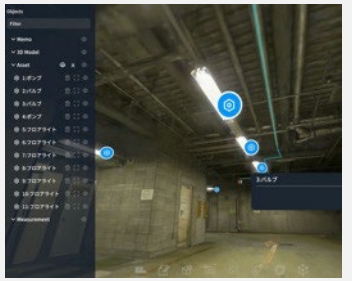
Kudan PRISMによる革新手法



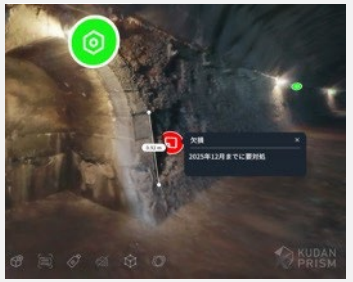
- **「人間の知覚と同等」なフィジカル空間知覚**（フォトリアル表示など）
- **現実理解AIエンジン**（セマンティック3D認識など）**で、AI有効性が飛躍的に拡大**
- データ利用・連携が効率化

幅広い産業DXに活用（一部事例を抜粋）

施設・設備管理



インフラ点検保守



スマートシティ・災害対応



- 従来困難だった領域でのDX促進により、**業務自動化・効率化・作業遠隔化を実現**
- 先進国共通の**現場労働力不足、老朽インフラ維持に向けて需要が拡大**

- 需要が高まる**災害シミュレーション・防災設計高度化に対応**、人命保護・災害復興に貢献

移動ロボット（市場背景）

■ 移動ロボットの市場は巨大であり、**実用化に向けた技術課題解決への需要は高い**



従来技術で実用可能なのは3~5%程度

2次元認識 インフラ活用 GPS測位







2040年には300兆円[1]に成長する移動ロボット市場の大半は次世代技術が必要な複雑環境

頻繁な環境変化



屋内外混合



複雑な立体構造



大量の移動物・人



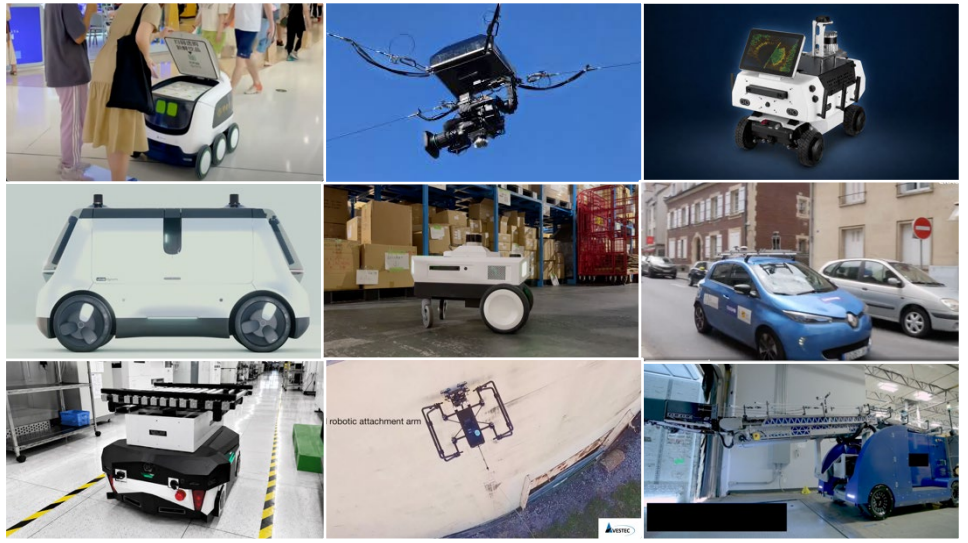
特徴が少ない環境



屋内オープンスペース



Kudanはグローバルでの実績・商用化



1. BCC ResearchやMarket Research Future等の調査より、複数の高成長セグメント（CAGR 12～16%以上）を背景に、2040年には市場全体が300兆円（約2兆ドル）規模に達する可能性

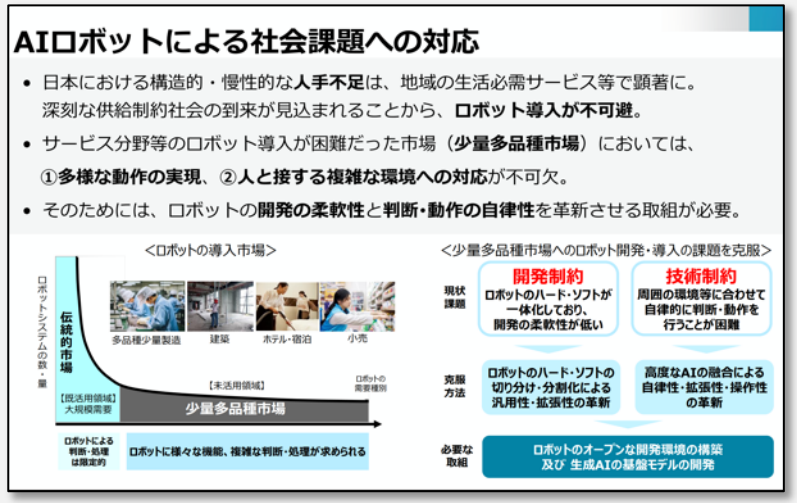
移動ロボット（政府案件詳細）

■ 経産省・建設業界大手が推進するSW開発事業で開発リーダー[1]として推進、**日本におけるコア技術の牽引を担う**

日本の国策

- 深刻な労働力不足の解消のため、**政府と産業界はフィジカルAI・ロボット施策を強化**
- ロボット自律移動は**難易度が高い現場向けに技術革新が必須**

経済産業省資料抜粋



案件概要

- 建設現場向けを導入として、**建設RXコンソ**[2]（建設大手各社加盟）**と業界横断で推進**
- 汎用的なロボット自律移動の技術を確立し、将来的にはより**幅広い産業**[3]**へ展開**

公募元	NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合研究機構）
事業名	ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／ロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤構築
採択テーマ	建設市場のロボティクス分野におけるソフトウェア開発基盤の研究開発
実施期間	2025年度～2027年度予定
全体予算	103億円（3年間合計）

当社の役割と今後への期待

- 実績を評価され、**中核的リーダー**[1]**として推進**
- 当社技術の**社会実装・普及も加速**
- フィジカルAI・ロボット施策を強化する**政府と継続して緊密に連携**

建設向け自律走行ロボットのイメージ



- 産業横断基盤の開発プラットフォーム・マーケットプレイスへ提供
- 高市新政権の成長投資の戦略分野の筆頭となるAI・半導体と連携強化

1. ロボット自律走行を実現するためのソフトウェアモジュールの開発を主導（計画策定・進行、中核技術の設計と開発、参画企業らの開発成果の統合）
2. 建設業界が抱える就労人口の減少、生産性・安全性の向上などの諸課題の解決に向け、施工ロボットやIoTアプリ等の開発と利用に係るロボティクストランスフォーメーション（ロボット変革）を推進すべく設立した民間団体
3. 物流・製造・インフラ管理・農業など幅広い産業への波及的な展開にも期待

ディスクレーマー

本資料の取り扱いについて

本資料は、当社の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。
すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。
当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、現時点において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではございません。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。